

532

役と奨励の旨申越したところから、その功賛
或するやにまつ。

要するに、この協定の條項に基くと、前記の労役
は Camp の class に入すべきものと解釋すべき
だが、中キャンプ司令官には條約文と解釋の能力
あるものと思はれ、右労役対象の本材は internes
の使用品である。インターの義務労役に加はるものと
曲解になると断定できる。何れにしても相方は実弾
を込めて大に段を次で、つかうて来るのだから戦
時には言はるものらしい事だ。

三月十三日(土)

今朝、長松大隊長の報告によくと、労役の件は
43対32の差で、十日間就働賛或が大数と
得たとの事である。

在野のわinternesとも共々今般複雑極の
労役に服させられてるや否やを知る必要からう。

Family Center、移動命令に接し、石場
先のわ、あかおあ会にけの先制会と接し。今日は
あかお会のKPが着につく南停上、数種の市
場野菜を整へるやあかおのわは好都合につく、ビー
と振き、梅干の握り飯と初め、フーヨーハー、ケーキ、
ピツクル等々で気分を上げ且つ石場の健康
を祝し。

一昨日の来訪の予定につく將軍と云々の

533

オリヴィング・ストン、キャンプの所謂ジェネラル・イン・ス
クワー・と云ふ一武官であるが、遂に海と見せ
かつたから、文書と停官を附いて送附したとの事。
何んの事やらサバサバ解らぬ。

三月十四日(日)。

Family Center 移動者連は食へ明々午後六
時半頃出発の旨通告あり。荷物は百五十
パウンド迄と制限されし。

三月十五日(月)

移動者
出る

午後七時、廿名(一名は取消命令に接し残る
事になった)の移動者は、同胞の萬歳声裡に二台
の軍用トラックに分乗し出た。

三月十九日(金)。

健康
診断

午後二時からインターナント病院の Ward に健康
診断が施されし。診断表は全部軍医
連であつたが、此の日は第一回目にて廿五名だけ
即ち第四、五、六、七のオレゴン組中支障ありもの
が計が出た。次に全員の直りやほれるものだが
が身長の始の相違念入りな診断であつた。

噂によつて internes の健康状態が、餘り直
りよくないとの報告に接し、却つて慌てて之
れを施したの事と言ふが、其真否は判らぬ。